

会議録

会議名称	令和7年度第1回山武市行政改革外部評価委員会	
開催日時	令和7年6月15日（日） 開会：午前10時25分　閉会：午後0時15分	
開催場所	山武市役所 第5会議室	
出席委員	金子光委員、伊藤義文委員、牧野光昭委員、長谷川晃広委員（4名）	
欠席委員	南部和香委員	
説明のために出席した職員	渡辺利明総務部長、岩澤和久財政課長、内山晴夫総務課長、鈴木敏一行財政改革推進室長、深澤孝之主査補、椎名幹主査補	
会議事項	<p>次 第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 職員紹介 4. 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 山武市の現状について (2) 会議の運営について 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行財政改革アクションプランについて (2) 主な取組項目について <ul style="list-style-type: none"> ・取組項目①：山武市立図書館の規模適正化 ・取組項目②：成東老人センターの老朽化対策 ・取組項目③：松尾交流センター（にぎわい処）の活用 6. そ の 他 7. 閉 会 	<p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)原案のとおり進めることとし、委員の意見を参考にPDCAサイクルを回してブラッシュアップしていく。 (2)検討した比較案（複数案）を提示し、次回会議で検討する。 <p>※詳細は、別添会議経過のとおり。</p>
会議経過	別添「会議経過」のとおり	

【5. 議題】**(1) 行財政改革アクションプランについて**

○事務局より説明。

○アクションプランの具体的な取組項目について、基本方針にある全ての業務は掲載しておらず、財政視点から早々に着手したい取組を中心に掲載しており、随時見直しと取組みを追加していく。

○取組項目の優先順位について、現段階では、数字的なものでの優先順位や基準はなく、まずは早期に着手すべき案件として今年度に取り組む項目であり、以前から議論されているが進んでいない施設をピックアップしている。

○取組項目の掲載順は、優先順位ではなく、基本的には市の組織の順番であり、比較的検討が進んでいて、できるものから着手していく。
ローリング方式による見直しは、年度末を目途に行い、翌年度新プランのスタートと考える。

財政推計について、財政調整基金の残高が令和 12 年度で適正額を下回ることが想定され、財政状況が厳しくなることが見込まれるため、山武市全体として行財政改革に取り組んでいくこととなったので、計画目標と連携しながら進めていきたい。

○施設の適正化は、維持管理費の削減が前提だが、複合化などに一時的に費用がかかることも想定される。

国の財源等を活用していくが、一時的にかかる費用について、今現在の山武市の財政状況であれば、まだ余力があると考えられるため、財政状況がひっ迫する前に、行財政改革をやることにより、将来の予算が適正になっていく。市全体として、今やるべきと共通認識が持たれた中での取り組み。

○アクションプランは、まず一番初めにやることをピックアップしており、この後、次々にやるべき項目を追加していく方式。効果やゴールは、新しい財政推計に基づいて再算定し、見直していく。

新しい財政推計と連動することが重要であり、推計によって取組項目が増えたり、早期に削減すべき項目が出てくる。

アクションプランは、原案のとおり進め、今後委員の意見を参考に PDCA サイクルを回してブラッシュアップしていく。

(2) 主な取組項目について

○事務局より説明。

○都市計画の観点から、山武市全体のまちづくりの中で、図書館がどういう位置づけなのかをしっかりと説明する必要がある。

インプットに対してアウトプット、更に言うともアウトカムといったデータに基づい

て、施設の統合理由を説明すると理解しやすい。

移転案の作成について、本当の案であるためには、3案くらいを提案し、それぞれのメリット、デメリットと、最終的に山武市をこういうまちにしていくという説明がよい。

- 各地区の施設のあり方を考えたときに、既存施設を組み合わせで最低限一つのものだけにするという考えは、何年後かに地域でその施設がないという話が出る可能性がある。

場所の検討の際に、その地区をどうしたいかが必要。

指標については、市民サービスが損なわれない、あるいは利用率から考えても適正という説明をするために、EBPMなども使っていくことが重要。

行政主体ではなく、住民との合意形成プロセスも事前に検討した方がよい。

- 山武市の都市計画マスタープランと総合計画の中での地域のまちづくりについては、旧町村単位で交流拠点を位置づけており、コンパクトなまちづくりという観点で都市計画を進めているため、行政は集中、まちづくりは地域分散でやってきたが、次のステージに行かないと財政が持たないところにきているので、今回アクションプランを提案した。

市民や議会への説明については、今後委員の意見を基にし、アクションプランの随時改訂等を行い、理解を求めていきたいと考えている。

- 市で議論して最善の案を出しても、一案だけでは他の案の良し悪しが分からないため、比較案を入れて、結果この案が最善という説明がよい。

以上